

(令和元年 8 月試験研究業務月報)

試験研究課題：クロアワビ潜水漁業総合管理技術開発

研 究

アワビ増殖に向けて試験魚礁を設置

京都府の海では、岩の隙間などにアワビ稚貝とウニが同居する様子が多く観察されます。これは、ウニの鋭いトゲの下にいて、タコなどの害敵からアワビ稚貝が身を守っていると考えられます。また、ウニが棲みついた岩の隙間などには、アワビ稚貝の餌となる無節サンゴモと呼ばれるピンク色の海藻が育ちやすくなります。こうした理由からウニの棲む隙間はアワビ稚貝にとって都合が良いと考えられています。

当センターでは、このようなウニとアワビの関係に注目し、アワビ稚貝を保護し、アワビを増やすことのできる魚礁の開発に取り組んでいます。ウニが好む隙間の条件を明らかにするために、様々な形状の溝をそなえた試験魚礁を自作し、8月6日に海底に設置しました。今後は定期的に調査を行い、設置後の魚礁を追跡して、ウニが好む溝の形状を特定することで、魚礁や護岸などの海中構造物を利用したアワビ増殖を進めます。



ウニの下に隠れるアワビ稚貝(円内)
ピンク色の部分が無節サンゴモ



海底に設置された試験魚礁